

# 2022年7月期 決算説明会

2022.09.21




2929

## 【免責事項】

本資料に記載されている予測、見通し、戦略およびその他歴史的事実ではないものは、当グループが資料作成時点で入手可能な情報を基としており、その情報の正確性を保証するものではありません。

これらは経済環境、経営環境の変動などにより、予想と大きく異なる可能性があります。



# 2022年7月期 業績ハイライト

## セグメント別ハイライト

## ポイント

## 連結業績

中期経営計画の達成に向け、研究開発(47%増)、広告宣伝(44%増)、M&A含むアライアンス構築(30億円超)に積極投資。

## BtoB事業

明治薬品の医薬品製造受託事業が堅調に推移。売上及び利益に貢献。ファーマギヤバの北米、中国向けは増収。

## BtoC事業

まつ毛美容液が新商品（売上28億円）として成長。下期、シボラナイトGOLD（32億円）も拡大で、ニューモ（280億円）を支える構造に進化。

## バイオメディカル事業

PAD2が日本、PAD4が米国でそれぞれ特許査定を受け、次期ライセンスアウトへ前進。自己免疫疾患以外の新しい疾患データ蓄積中。AI創薬への取組が加速。2021年導出の開発候補抗体は順調に進捗。

## 連結売上高

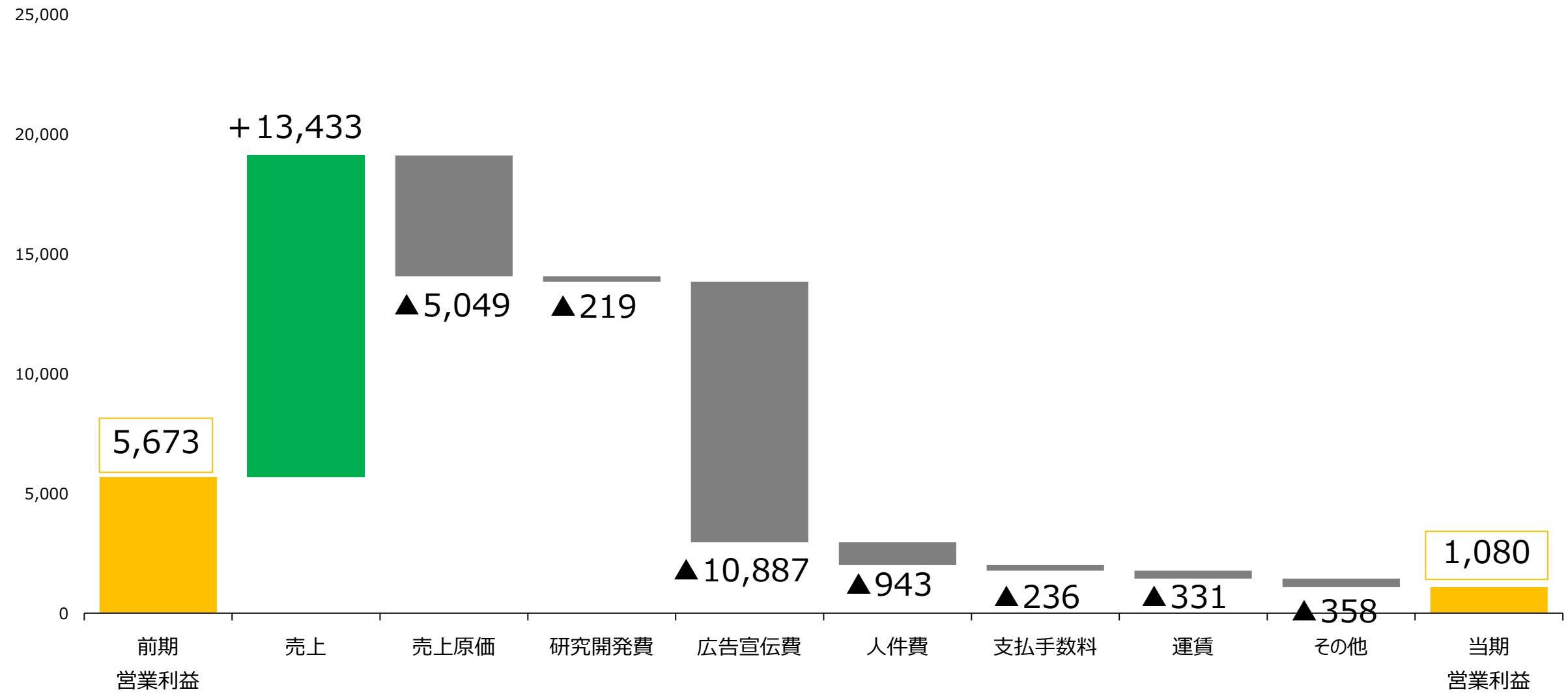
(百万円)

	2021年 7月期	2022年 7月期	増減
BtoB事業	2,852	<b>8,079</b>	+183.3%
BtoC事業	43,524	<b>51,886</b>	+19.2%
バイオメディカル事業	375	<b>220</b>	▲41.3%
合計	46,752	<b>60,185</b>	+28.7%

	2021年 7月期	2022年 7月期	増減
BtoB事業	770	<b>1,660</b>	+115.6%
BtoC事業	5,575	<b>638</b>	▲88.6%
バイオメディカル事業	81	<b>▲231</b>	—
調整額（全社費用等）	▲754	<b>▲986</b>	—
合計	5,673	<b>1,080</b>	▲81.0%

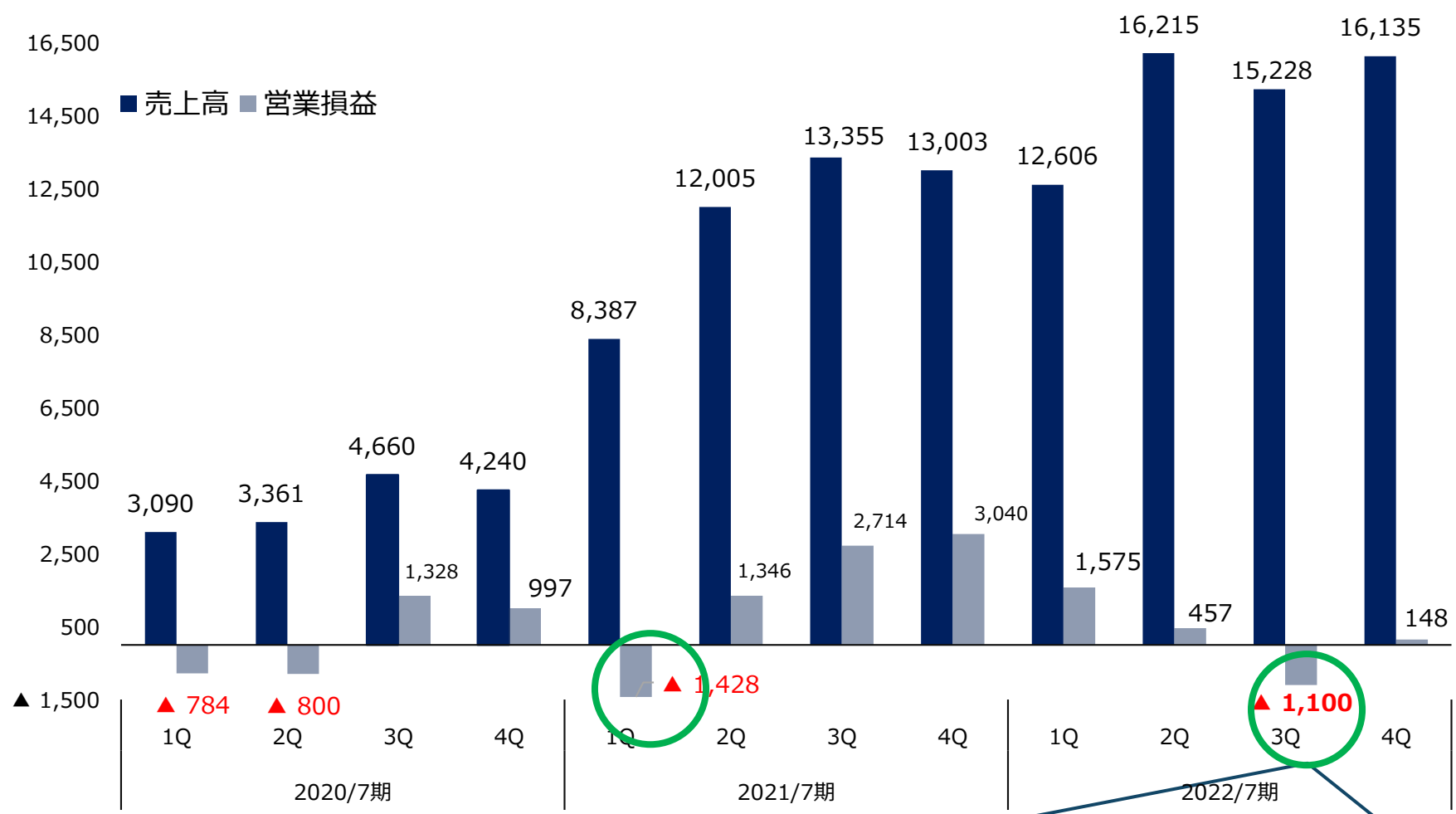
# 営業利益増減分析

(百万円)



# 連結四半期業績推移

(百万円)



前期のニューモ育毛剤と同様、機会を逃さず投資を実行。



# B to B 事業



# アイテム別売上

(百万円)

	2020/7期					2021/7期					2022/7期				
	1Q	2Q	3Q	4Q	合計	1Q	2Q	3Q	4Q	合計	1Q	2Q	3Q	4Q	合計
ファーマギヤバ	279	295	385	275	1,235	208	369	331	439	1,348	152	304	282	532	1,271
ボーンペップ	32	59	127	52	271	37	54	69	86	248	47	50	55	21	176
葉酸たまご	17	16	18	17	69	10	14	12	10	48	15	11	10	10	49
ランペップ	9	18	14	41	84	4	6	22	25	59	5	24	7	19	57
セレプロン	1	8	33	56	100	6	19	12	83	121	2	6	6	1	17
HGP	4	0	4	6	15	3	1	1	43	50	5	2	4	4	16
カテキン	1	2	3	3	10	3	10	14	10	39	4	3	3	4	16
鶏卵抗体	2	2	3	2	10	5	2	2	2	13	2	3	1	2	10
iHA	2	8	3	7	22	3	4	0	4	12	0	4	0	3	8
越境EC	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	23	85	110	80	300
その他素材	62	44	53	39	200	51	34	33	48	167	16	18	17	32	85
OEM	81	52	244	174	553	126	179	267	166	739	228	84	131	180	625
CMO ※												1,672	948	1,021	3,642
CHC ※												869	466	465	1,801
合計	495	511	891	676	2,575	460	698	769	924	2,852	504	3,143	2,048	2,382	8,079

CMO (Contract Manufacturing Organization) : 医薬品製造受託機関

CHC (Consumer Health Care) : ドラッグストアでの医薬品及び機能性食品等の販売

## 機能性表示食品受理件数

(件)

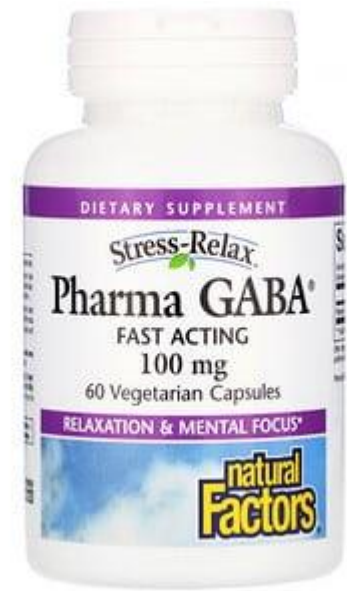
順位	機能性関与成分	受理数
1	<b>GABA</b>	<b>716</b>
2	難消化性デキストリン	434
3	DHA・EPA	301
4	ルテイン・ゼアキサンチン	259
5	ブラックジンジャー由来ポリメトキシフラボン	196
6	イチョウ葉 (フラボノイド配糖体、テルペンラクトン)	167
7	ビフィズス菌	154
8	葛の花由来イソフラボン	144
9	L-テアニン	137
10	アスタキサンチン	123

2022.7.31 現在 当社調べ

# ファーマギヤバ (国内)

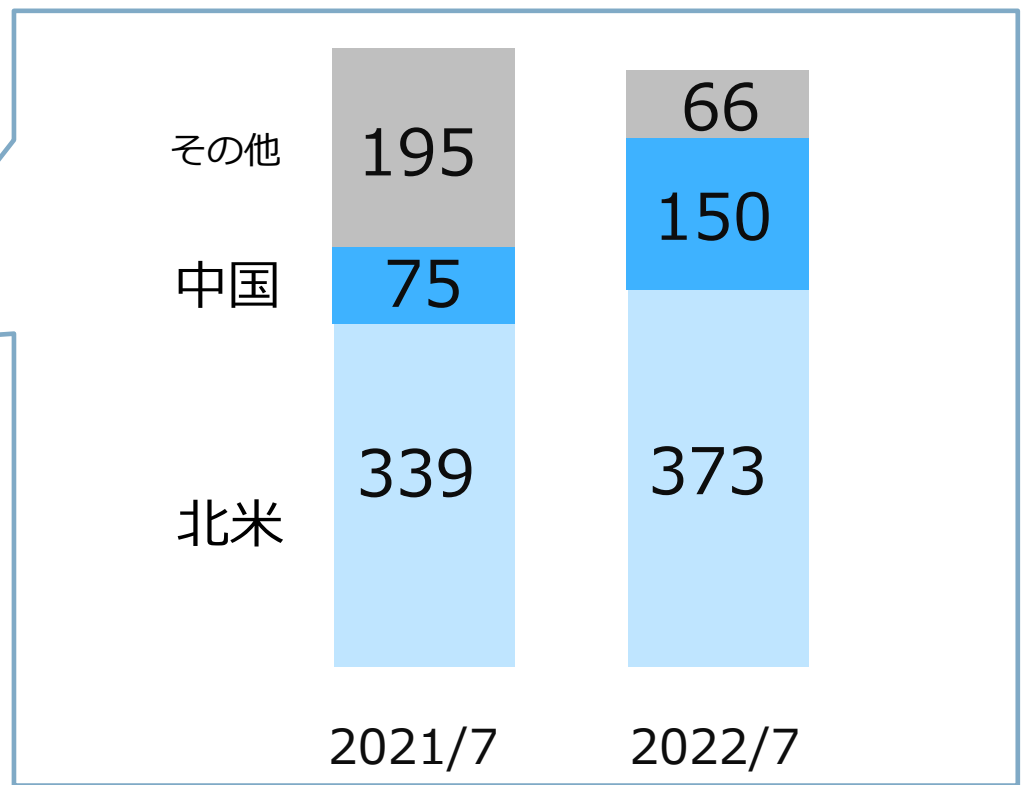
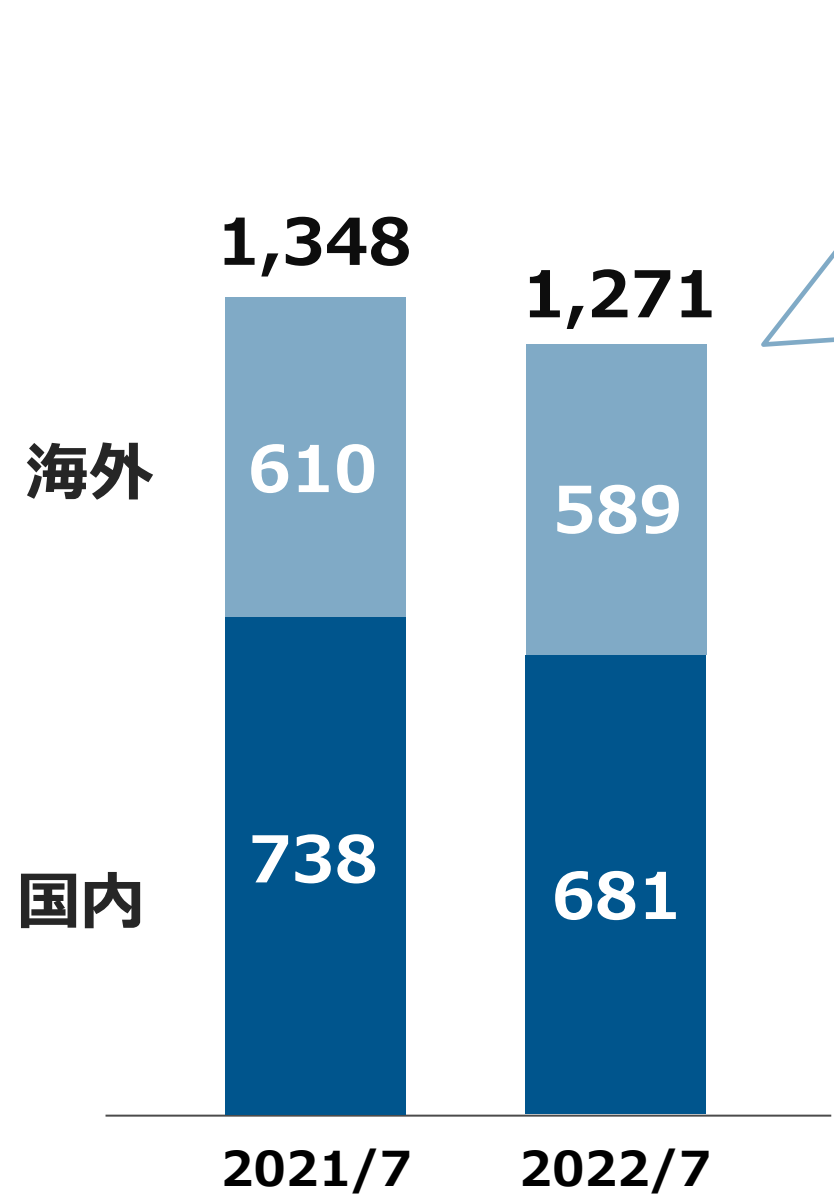


# ファーマギャバ (海外)



# ファーマギヤバ

(百万円)



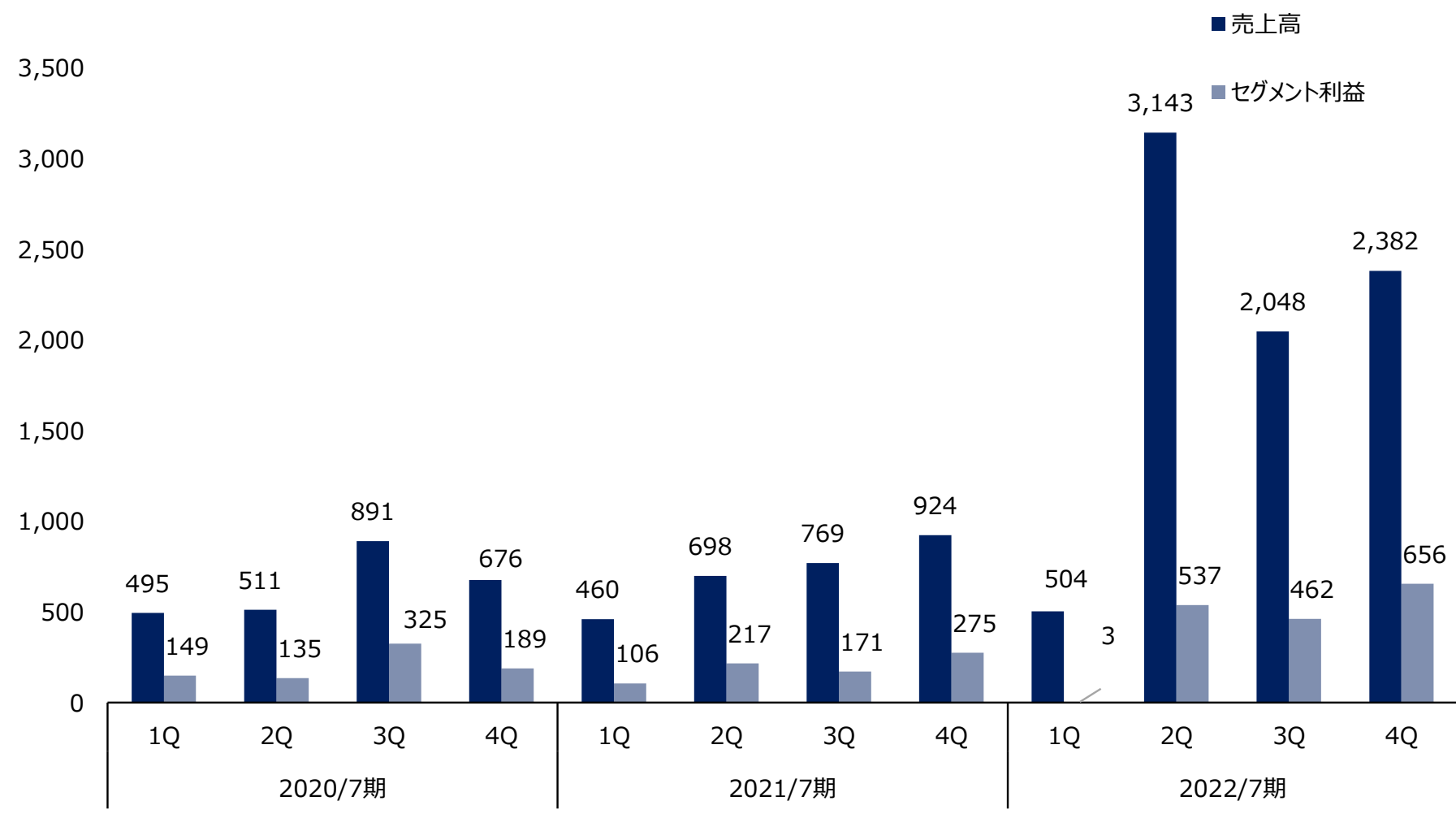
**主力市場の北米、中国は増収を確保。  
その他アジア市場で減収。**

# 医薬品製造受託（CMO）事業について

- 稼働率は60% => 105%へ
- 人件費、原材料費の高騰は、受注価格への転嫁が完了
- 製造品質に関する査察も基準を当然クリア

# 四半期業績推移

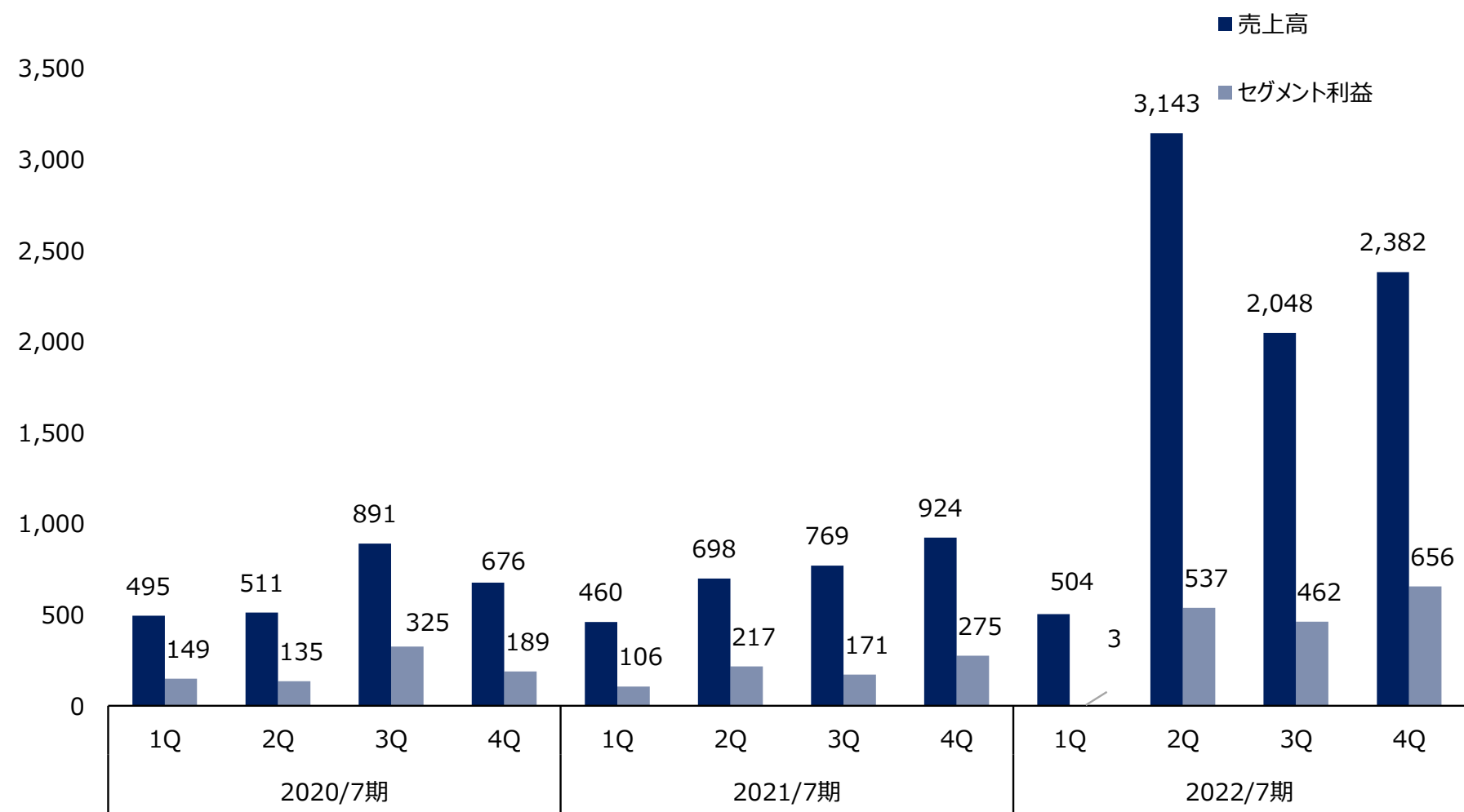
(百万円)



**機能性原料販売から最終製品販売へと注力分野をシフト中。**


# 四半期業績推移

(百万円)



**機能性原料販売から最終製品販売へと注力分野をシフト中。**





# B to C 事業

# 新主力商品が着実成長



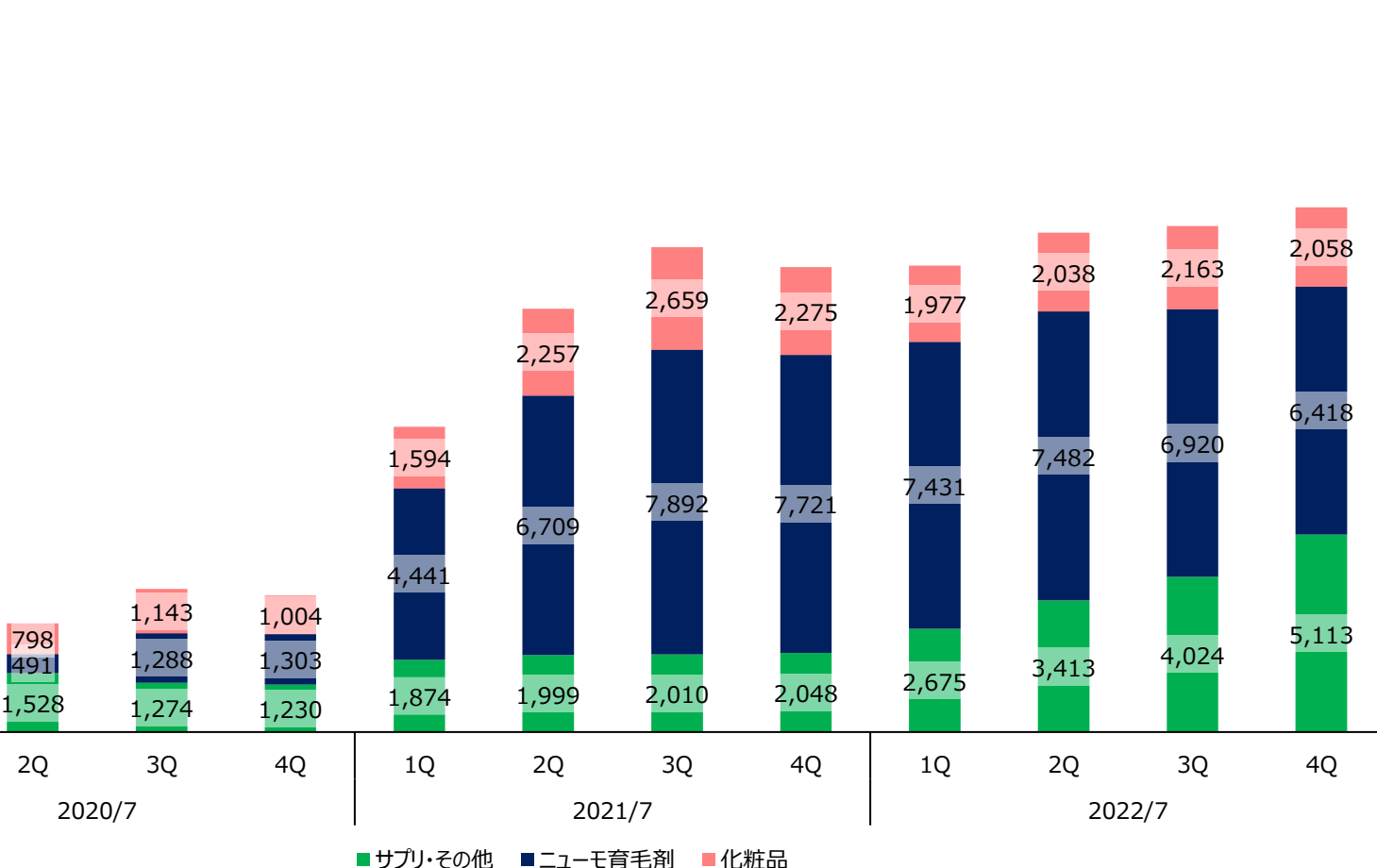
化粧品

医薬品・医薬部外品

# アイテム別売上高

(百万円)

主な製品の売上推移

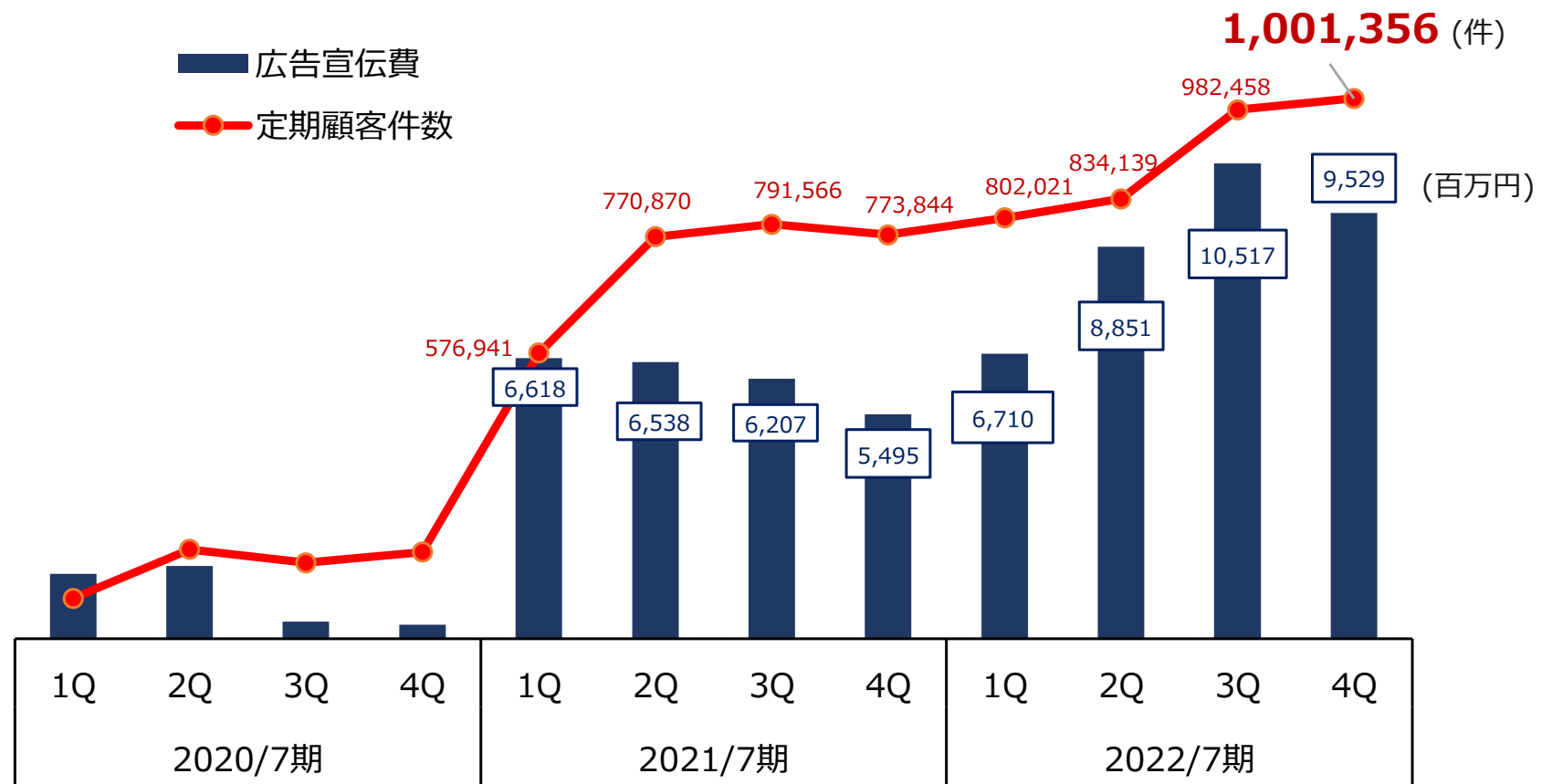


	前期				当期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
エアカラーフォーム	690	591	746	1,143	893	949	907	<b>581</b>
珠肌のうみつ	343	518	563	411	357	367	462	<b>411</b>
珠肌ランシエル	118	131	170	127	118	121	238	<b>508</b>

	前期				当期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
ニューモサプリ	758	1,060	1,093	893	806	773	635	<b>507</b>
タマゴサミン	795	751	774	740	720	628	573	<b>512</b>
まつ毛美容液					74	917	879	<b>922</b>
シボラナイトGOLD					8	652		<b>2,534</b>

まつ毛美容液(28億円)、シボラナイトGOLD(32億円)、エアカラーフォーム(33億円)など、主力のニューモ育毛剤(280億円)を支える新商品が着実に成長。

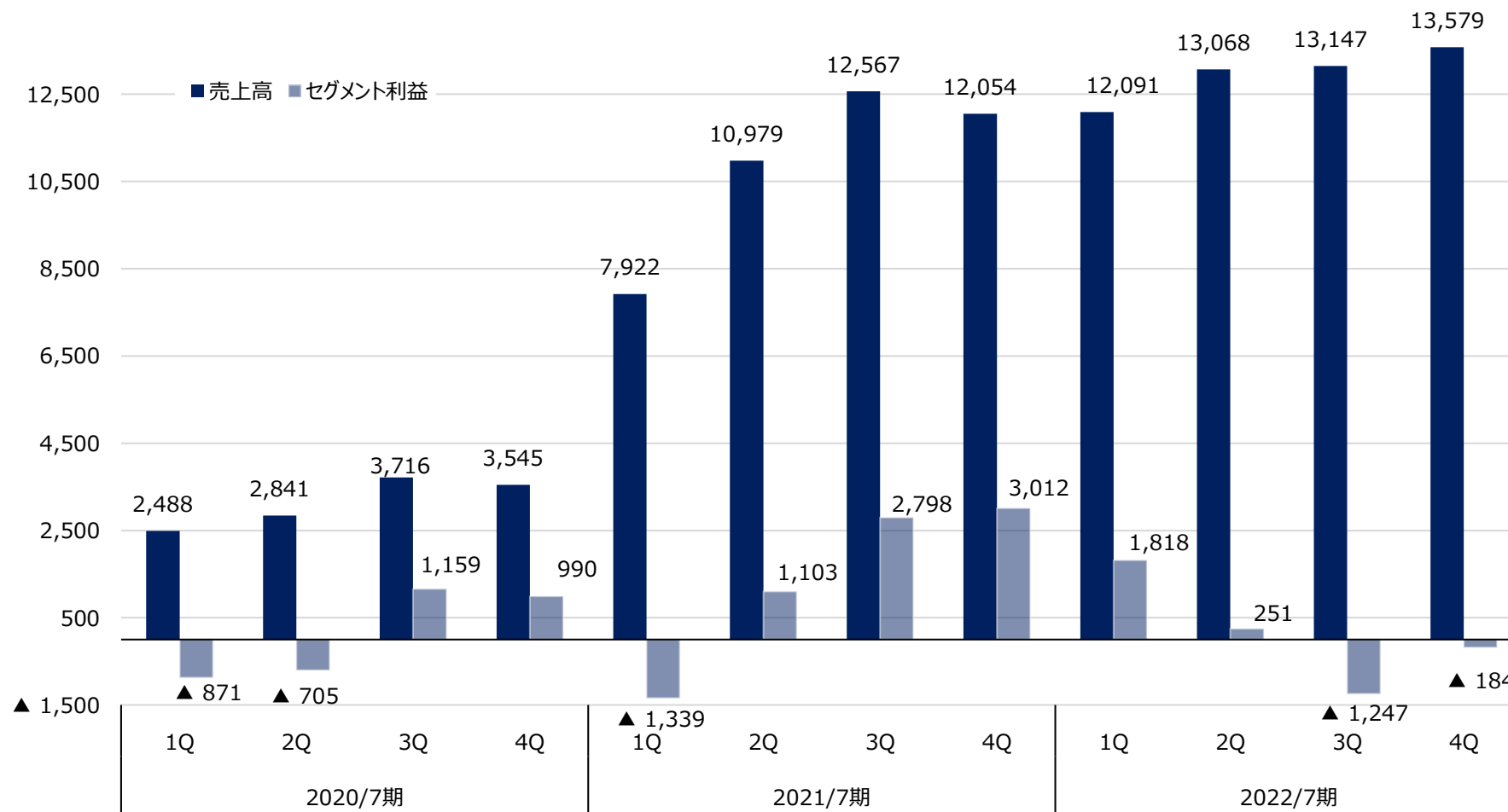
# 広告宣伝費と定期顧客件数




**広告宣伝費の上限を定めず、  
各媒体及び商品ごとの広告効率(CPO)を厳格に管理することで定期顧客件数が増加**

# 四半期業績推移

(百万円)

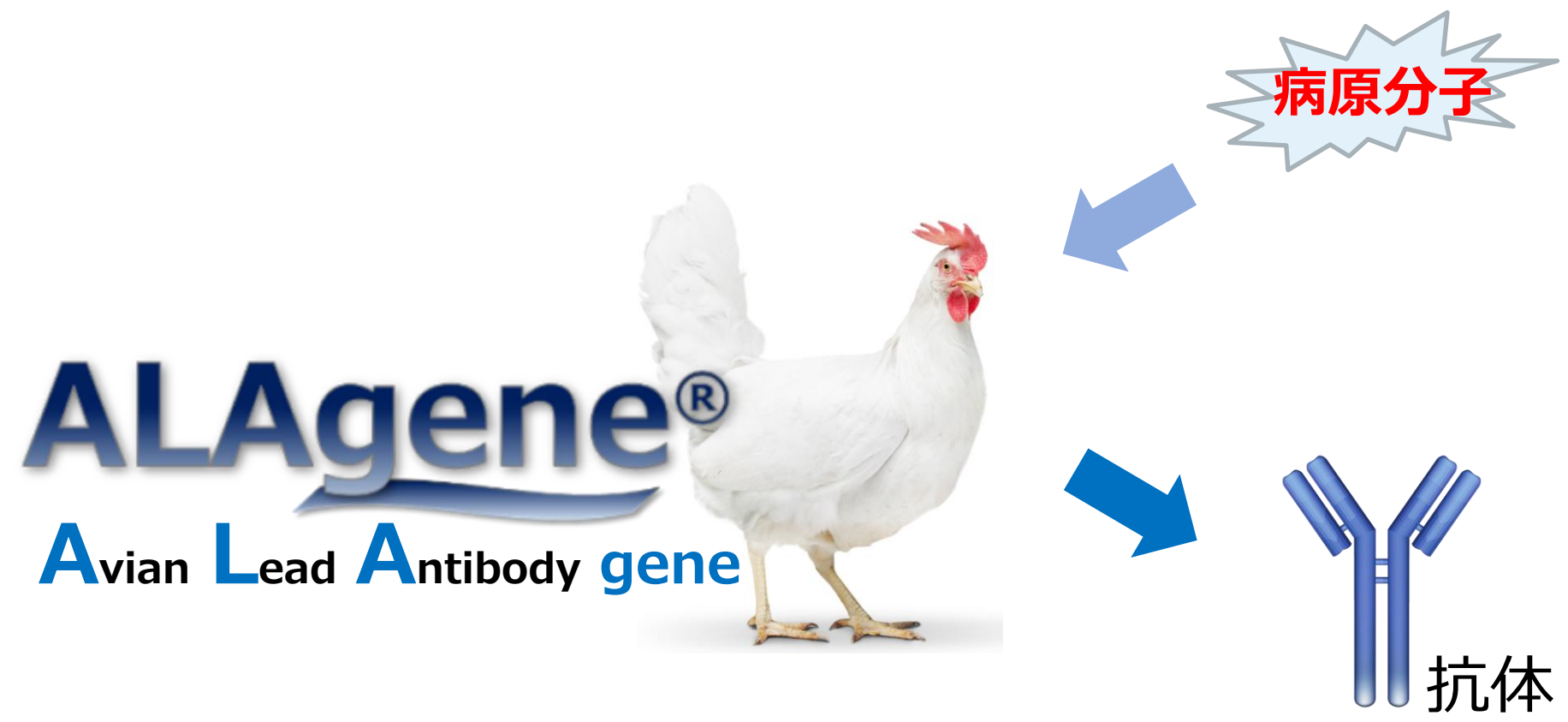


**四半期として過去最高のセグメント売上を達成  
成長トレンドが継続**



# バイオメディカル事業

# “ニワトリ”から抗体医薬品を作る

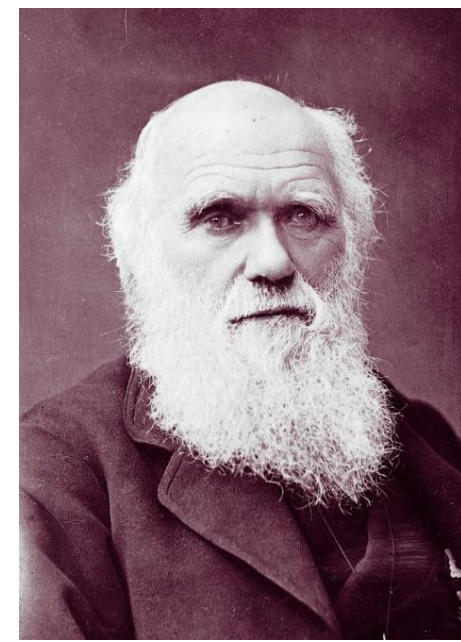
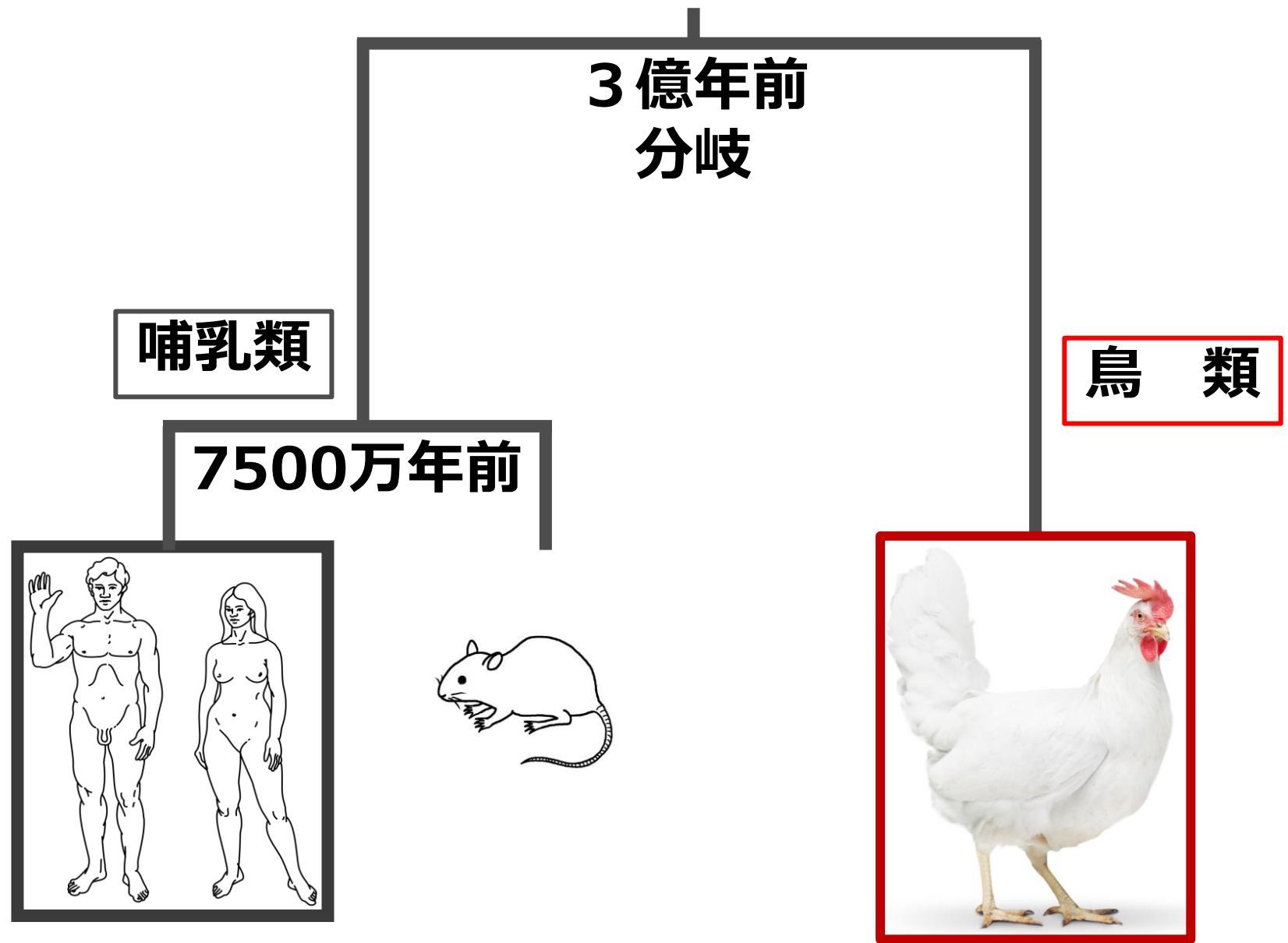


1  
作製困難抗体

2  
高結合力

3  
ヒト化抗体

# “ニワトリ”は ヒト抗原に対する多様な抗体を作り出す







## 自己免疫疾患

	代表的な疾患	当社の知的財産権の対応状況
PAD1	皮膚疾患	—
<b>PAD2</b>	多発性硬化症、関節リウマチ等	特許査定： <b>日本</b> 出願中：米国、カナダ、欧州、中国
PAD3	皮膚疾患	—
<b>PAD4</b>	関節リウマチ	特許査定： <b>米国</b> 及び日本 出願中：欧州
PPAD	歯周病、関節リウマチ等	—

**PAD2が日本、PAD4が米国でそれぞれ特許査定を受け、次期ライセンスアウトへ前進。**

# AI創薬：高性能抗体の作製に成功

抗体標的  
部位の選定

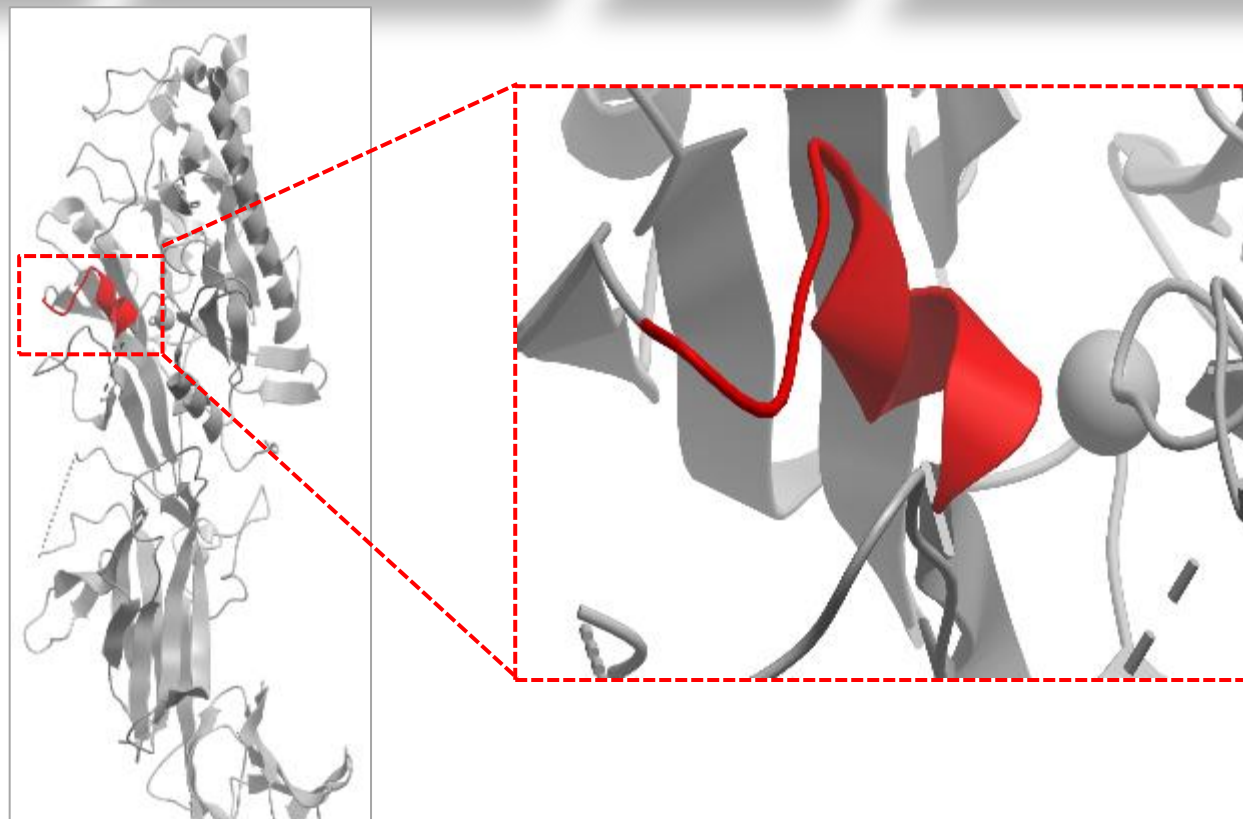
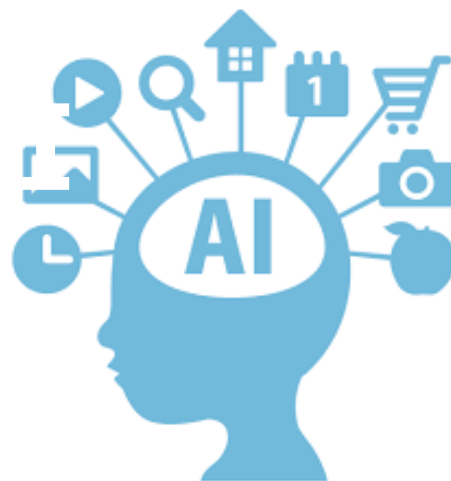
免疫

抗体選抜

性能  
分析

ヒト化

機能的に重要な  
抗体標的部位の予測



タンパク質のアミノ酸の構造特性に基づいて、  
抗体生成の可能性が高い創薬領域（エピトープ）を自動的に検出

# 新規共同研究

締結済

**新規技術・医薬品開発**

準備中

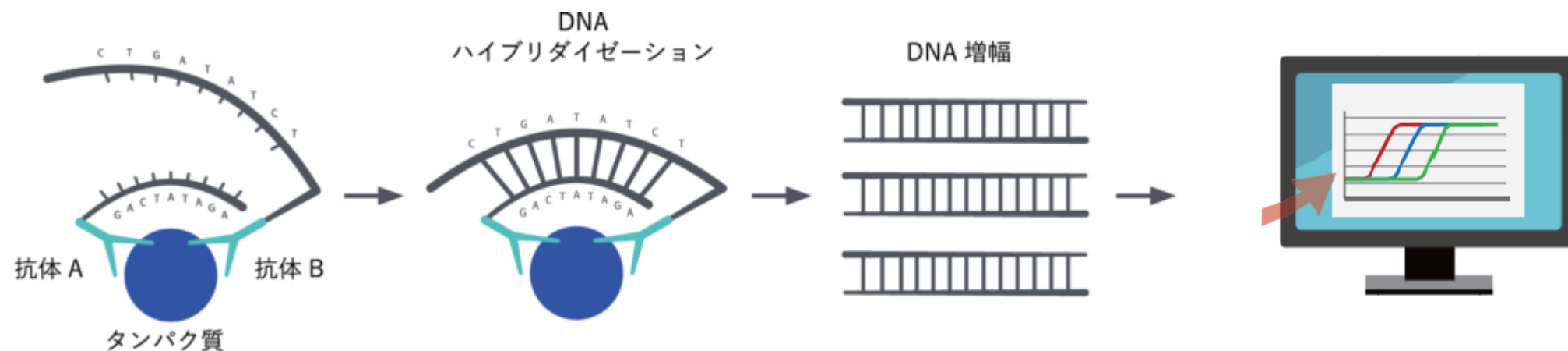
**新規技術開発**

**AI創薬**

**新シーズに対する医薬品開発、新規技術開発**

ALAgene technologyの高度化、新シーズの発掘を目指す

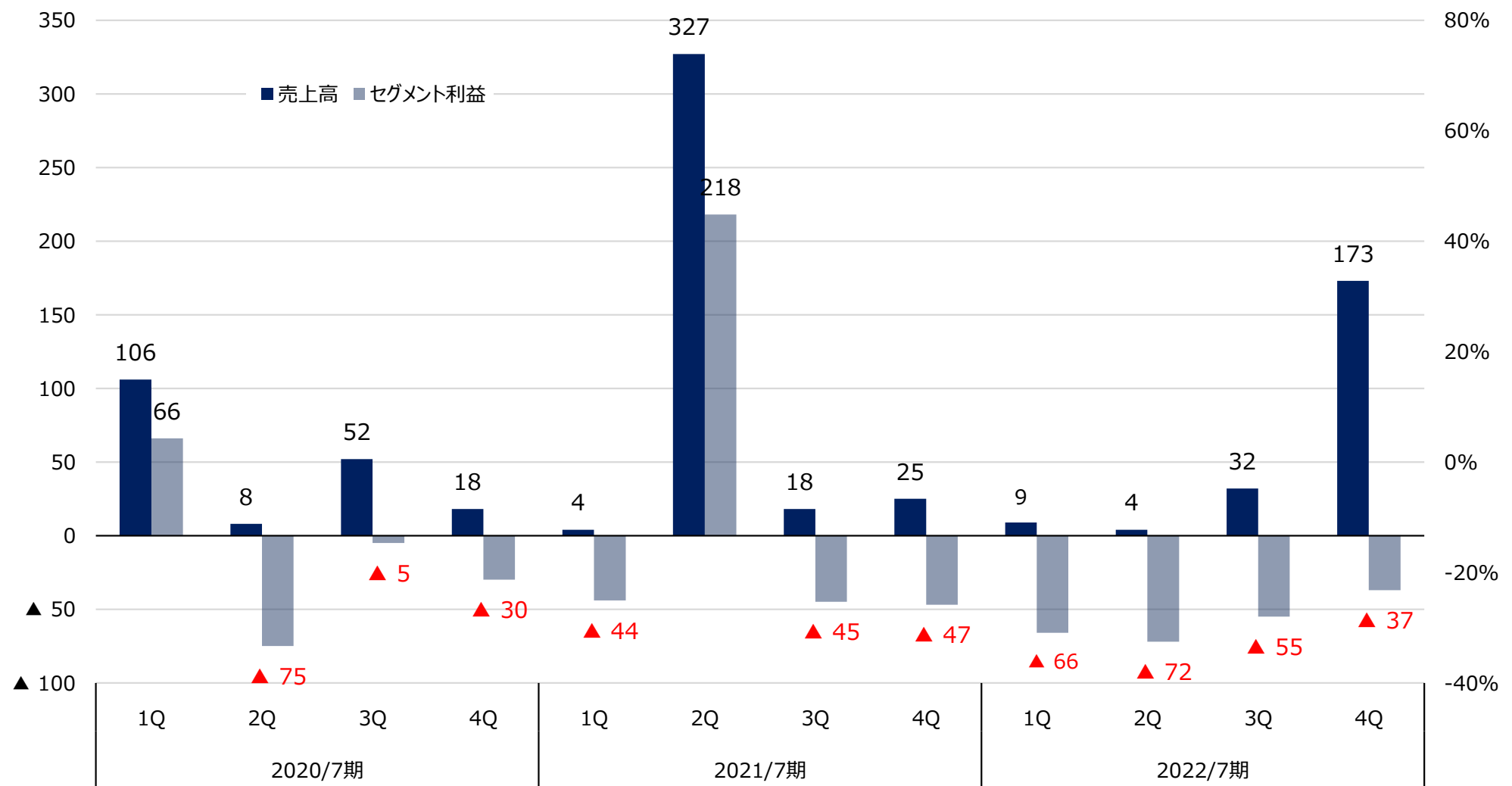
# 世界的プロテオミクス大手と戦略的パートナーシップ締結



次世代プロテオーム解析で生体内の特異なタンパク質と疾患の関係を解明。  
既に大手製薬メーカーより解析事業受託。自社創薬もさらに前進。

# 四半期業績推移

(百万円)



**自己免疫疾患及び新しい疾患への抗体医薬品開発、AI創薬に引き続き投資する**



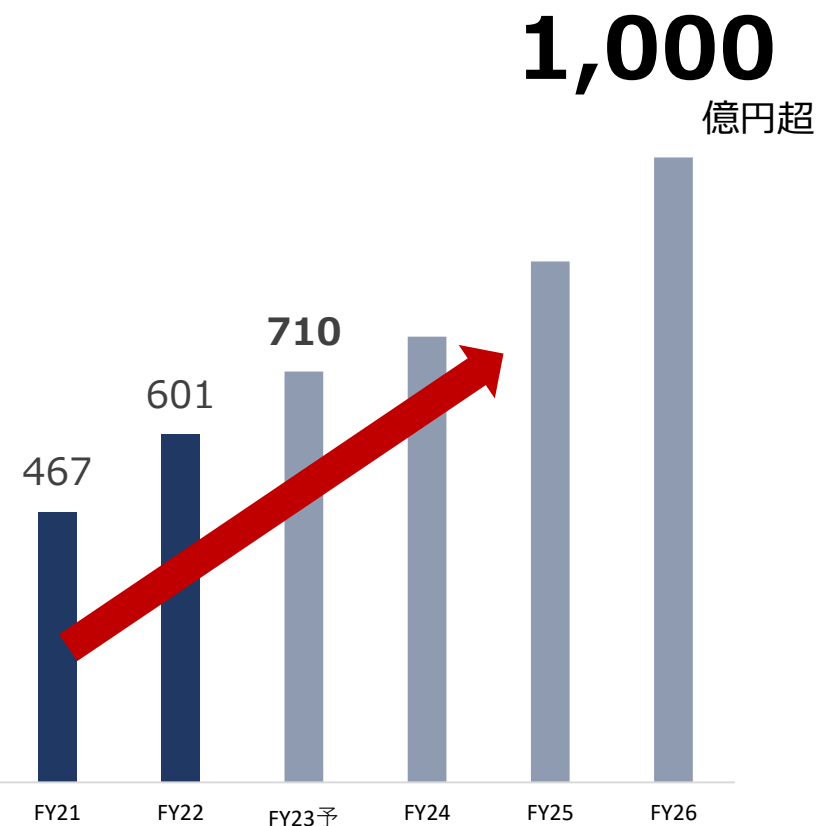
# 2023年7月期業績予想

# 売上高の構成イメージ

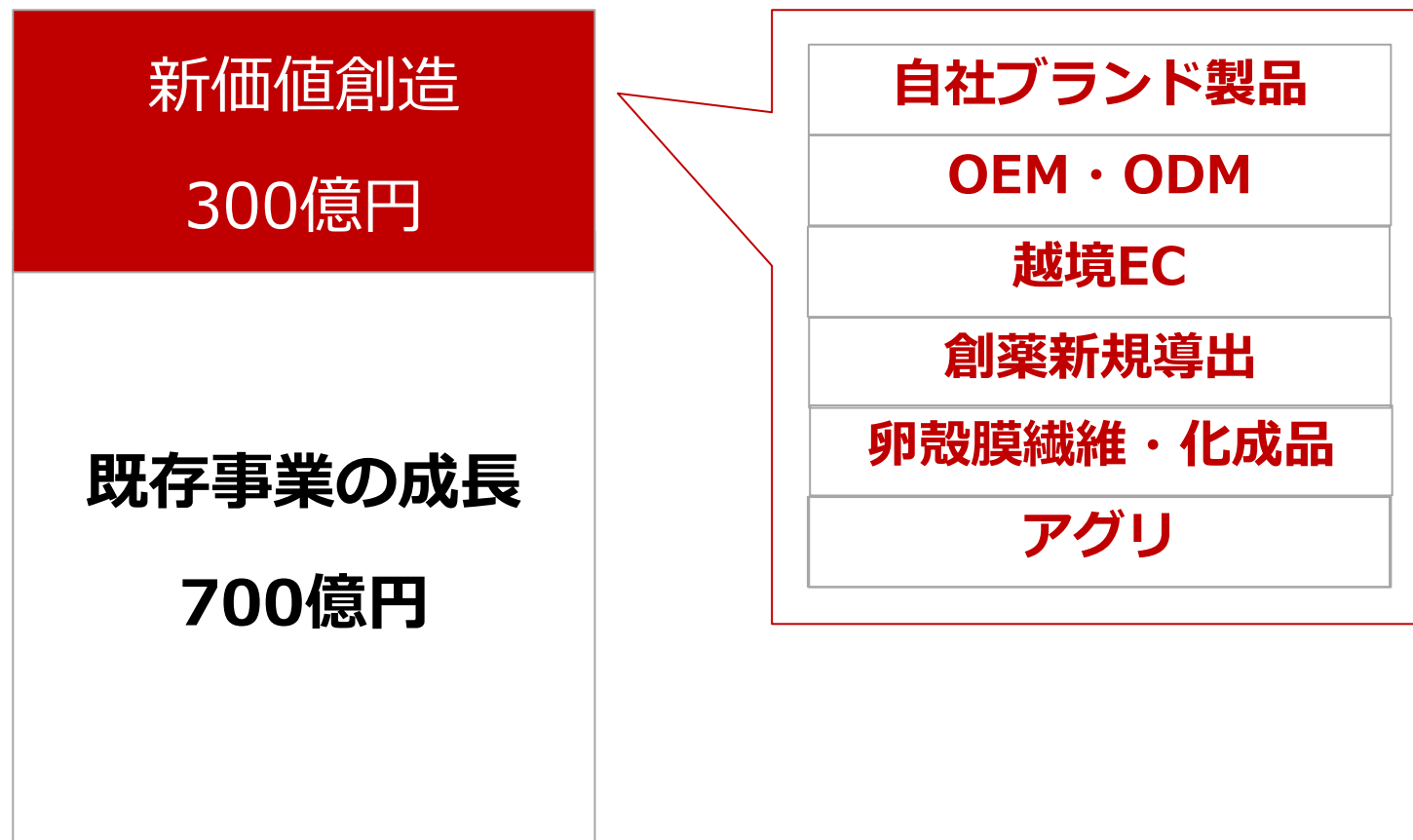
## 「新価値創造 1K」

### 新価値創造に取り組み、5年後売上高**1,000**億円を目指す

売上高目標



5年後の売上高構成イメージ

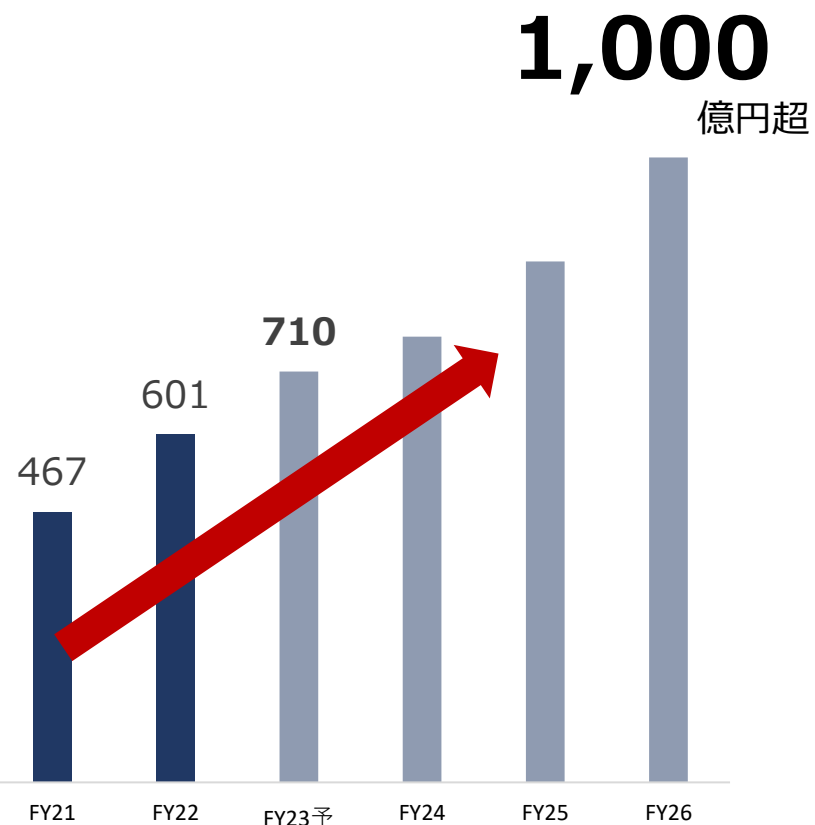




# 数値目標

## 新価値創造に取り組み、5年後売上高**1,000**億円を目指す

### 売上高目標



### コミットメント

#### 売上高成長率**20%**

当社グループは規模の拡大による成長性を重視しております。新規事業やM&Aを通じて、2026年7月期までの売上高年平均成長率20%以上を実現します。

#### 総還元性向**20%**

研究開発、広告宣伝及びM&A等に対する積極的な投資を拡大させながら、株主様に対する還元策として配当等を積極的に充実させていきます。この方針の下、自己株式取得を含む総還元性向20%を株主還元策の目安としております。ただし、中期経営計画の進捗に照らした株価水準と市場との間に大きな乖離が生じていると判断した場合は、この限りではありません。

### 利益水準の考え方

#### 営業利益率 **10%**

2026年7月期までは、大胆にリスクをとりながら規模の拡大を目指してまいります。平均的に10%の営業利益率が確保できる体制を目指してまいります。ただし、単年度における利益率が低下することを恐れず事業展開を行います。

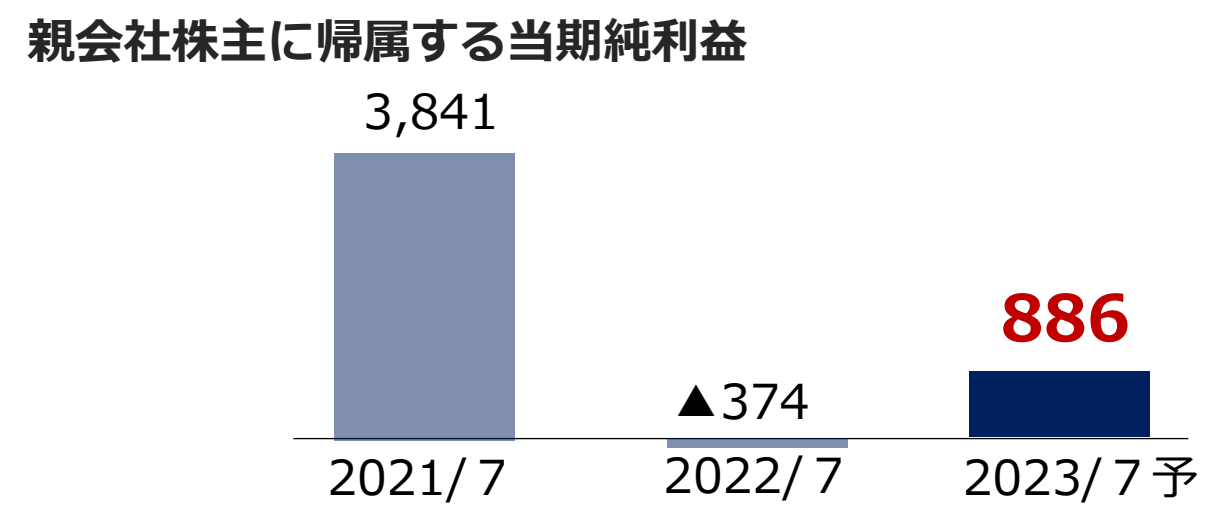
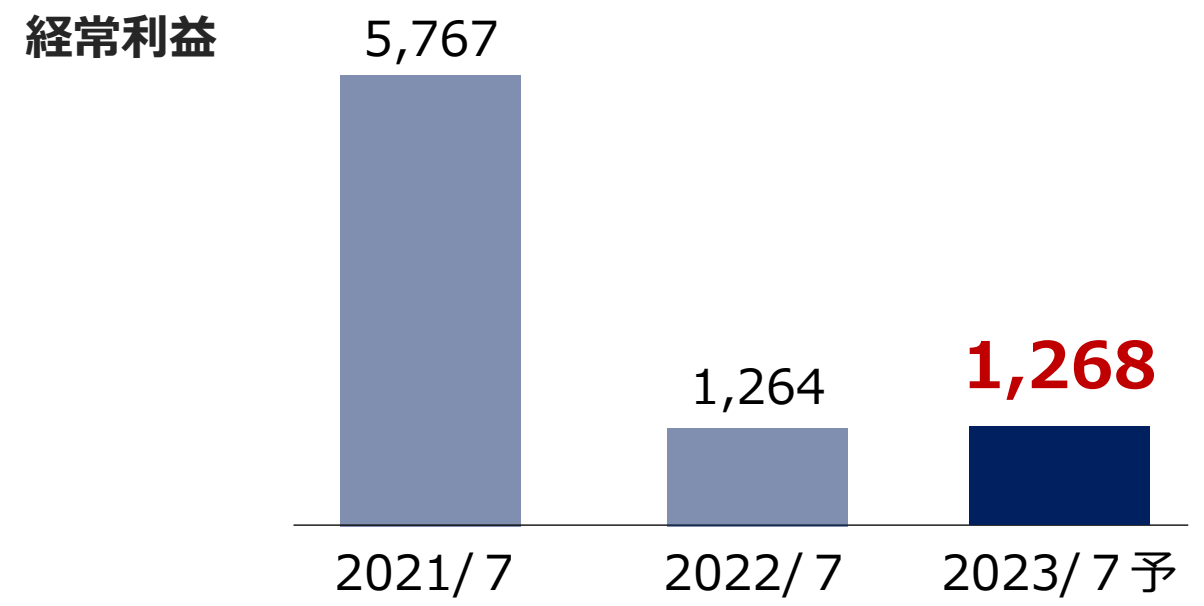
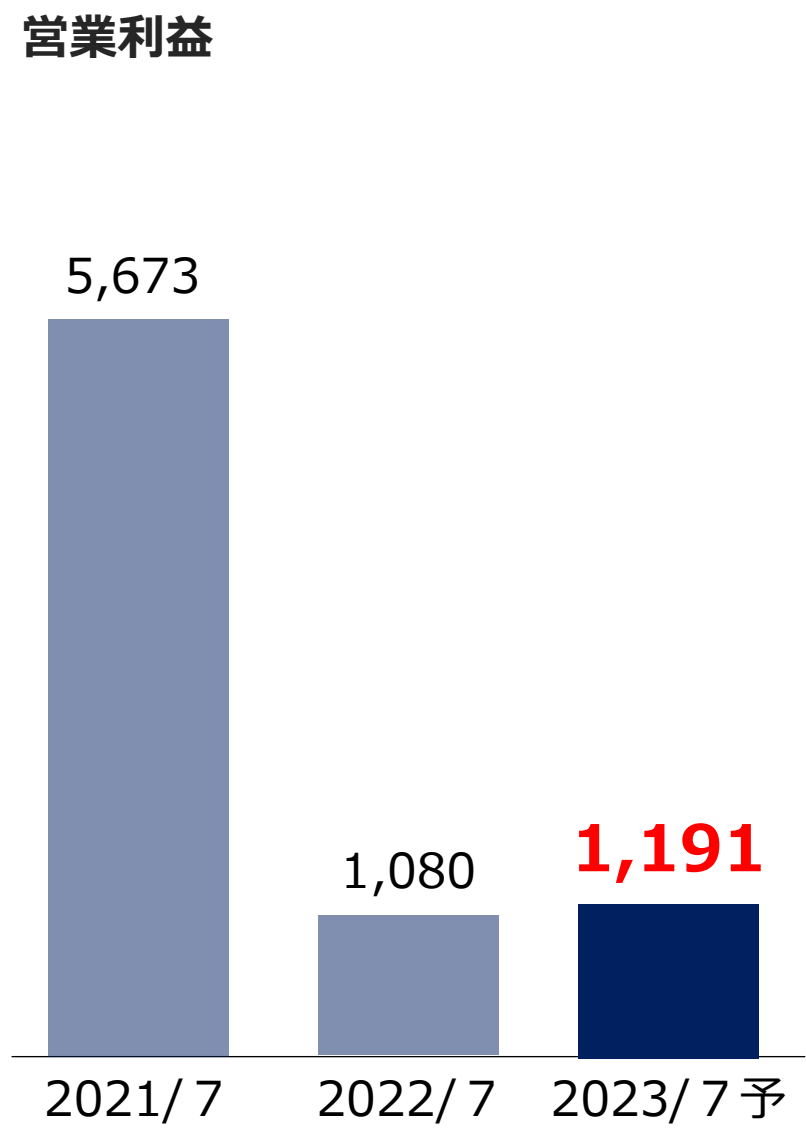
## 連結売上高

(百万円)

	2022年 7月期	2023年 7月期想定	ポイント
BtoB事業	8,079	8,600	医薬品製造受託はフル稼働見込み。 機能性素材は原料から最終製品への流れが加速。プライベートブランド受託から自社ナショナルブランド品へ。
BtoC事業	51,886	62,000	新ブランド「キュラシリーズ」の立ち上がり好調。ニューモも広告を見直し底堅く推移見込み。明治薬品の漢方薬など、シボラナイトのように期中での広告増加の可能性あり。
バイオメディカル事業	220	360	新疾患への抗体医薬品開発を進めながらも、大手製薬へのオーリンクなど次世代プロテオーム解析受託を拡大させる。
合計	60,185	71,000	M&A及びアライアンスの構築に引続き注力。 海外拠点も作り、積極進出。

# 連結利益

(百万円)



# 株主還元

	2022年 7月期	2023年 7月期予想
<b>一株あたり 年間配当金</b>	20円	<b>20円</b>
配当金総額	5.8億円	5.8億円
親会社株主に帰属する 当期純利益	▲3.74億円	8.86億円
<b>配当性向</b>	—	<b>65.5%</b>
<b>自己株式取得</b>	3億円	未定
<b>総還元性向</b>	—	<b>65.5%</b>


※2022年9月6日発表の業績予想の親会社株主に帰属する当期純利益に基づく

## 株主還元方針

当社は、企業の成長性と収益性を両立させる事業方針の下、**研究開発、広告宣伝及びM&A**等に対する積極的な投資を拡大させながら、株主様に対する還元策として配当等を積極的に充実させていくことを基本方針としております。

この方針の下、**成長投資の推進、財務健全性の確保及び株主還元の強化のバランス**を考慮し、自己株式取得を含む総還元性向20%を株主還元策の目安としております。

# M&A、アライアンスに引き続き注力

2021年3月	三洋化成工業(株)	▶資本業務提携（約4億円） 化粧品、アグリニュートリション、医薬品等の研究開発及び販売の連携
2021年7月	ロート製薬(株)	▶資本業務提携（約6億円） ヘルス&ビューティケア及び食分野の製品開発、生産、販売の連携
2021年8月	明治薬品(株)	▶完全子会社化（約23億円） 製造、ドラッグストア販路等の経営資源を活用
2021年8月	(株)アイ・ブレインサイエンス	▶第3者割当増資の引受（6千万円） 認知機能低下の早期発見及びその改善のための機能性食品素材の組み合わせ
2022年4月	(株)アンテグラル	▶吸収分割 プロテオーム解析技術により、創薬ターゲットの探索・同定をより強化
2022年5月	オンキヨー(株) 	▶持分法適用関連会社化（数億円） 健康・医療機器の販売及び創薬事業におけるAIを活用した標的探索
2022年7月	ENEGGO(株)	▶エネオスホールディングス(株)と共同で第3者割当増資の引受（1億円） 卵殻膜やGABAを用いたバイオスティミュラントの製品開発、生産及び販売の連携

# Be Bold



リスクを恐れず大胆に



# Appendix

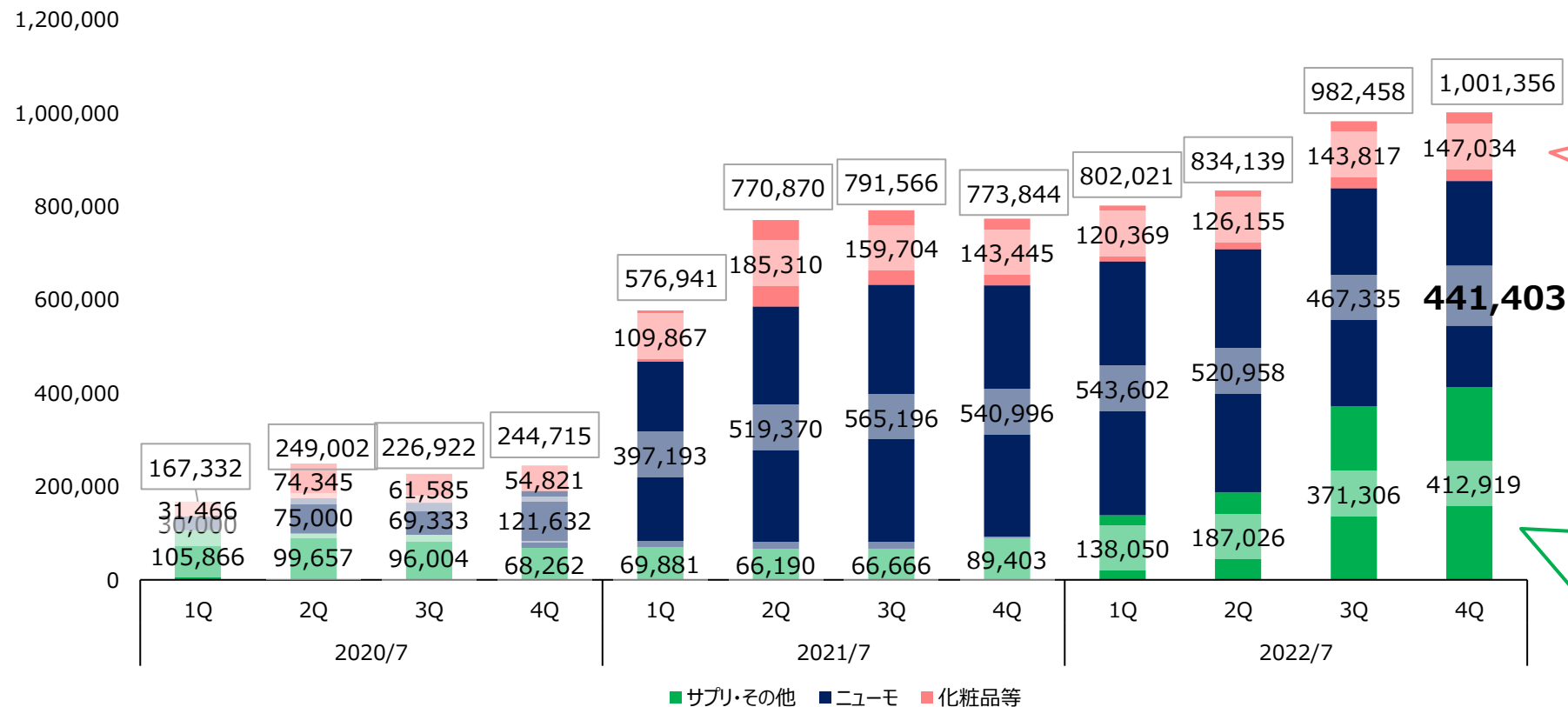
# 定期顧客件数の内訳

(件)

主な定期顧客の内訳

**エアカラーフォーム : 48,241**  
**ランシエル : 48,952**

**タマゴサミン : 46,856**  
**まつ毛美容液 : 65,863**  
**ロートV5 : 29,970**  
**シャンプー : 11,471**  
**シボラナイト : 209,379**





## セグメント区分及び名称の変更について

「製品及びサービス」別 → 「製品及びサービス」並びにその「販売ルート別」

旧区分	新区分	主な変更点
機能性素材事業	<b>BtoB事業</b> 機能性素材、健康食品及び医薬品等の研究開発及び製造を行い、食品・医薬品メーカー、流通事業者等に販売	明治薬品の「医薬品製造受託(CMO)事業」 「医薬品等の卸売(CHC)事業」を新たに追加
通信販売事業	<b>BtoC事業</b> 健康食品、医薬部外品及び化粧品等を、通信販売の方式で消費者へ直接販売	明治薬品の新事業「リピート通販事業」を新たに追加
バイオメディカル事業	<b>バイオメディカル事業</b> 独自技術を用いた創薬シーズの製薬会社へのライセンスアウト並びに分析・効能評価試験の外部機関等へ提供	2022.4.1付で吸収合併する(株)アンテグラルの「プロテオーム解析事業」を新たに追加予定

免疫

老化

神経

## B to B 事業

機能性素材事業

PharmaGABA®

## B to C 事業

発明企業の通販事業

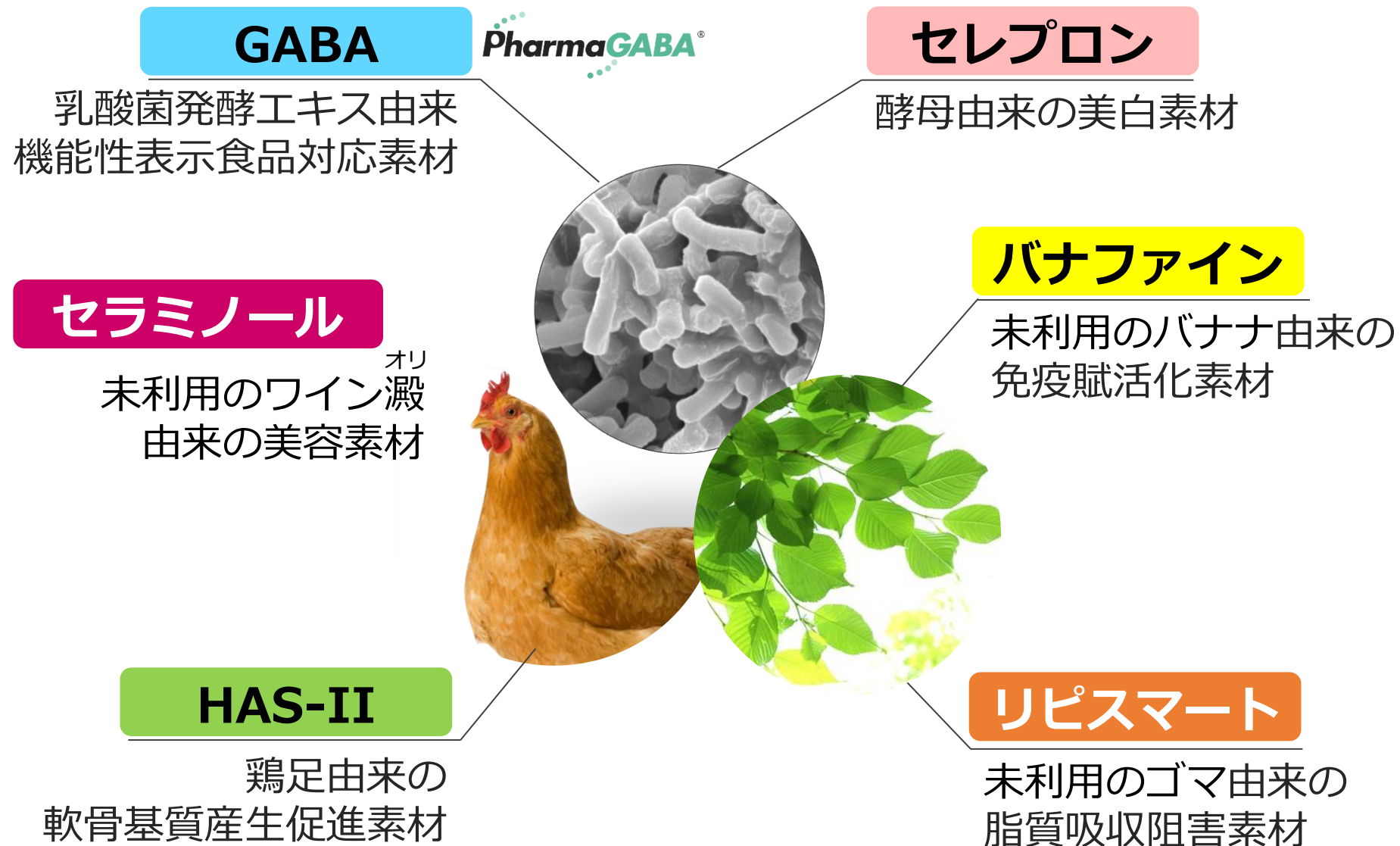
タマゴ基地®  
TAMAGOKICHI

## 創薬事業

Drug Discovery事業

ALAgene®

# “天然由来”の原料から機能性素材を探索



# “タマゴ”から食品・化粧品の機能性素材を探索



## iHA (アイハ)

軟骨増殖

## ボーンペップ

骨形成促進



## HGP

育毛促進

## ランペップ

血流改善



## 葉酸たまご

核酸の合成



## ランシエル

未利用の卵殻膜由来の肌改善美容素材



# “発明企業の通販事業”として、健康食品・化粧品・医薬品等を販売



健康食品



化粧品



医薬品・医薬部外品



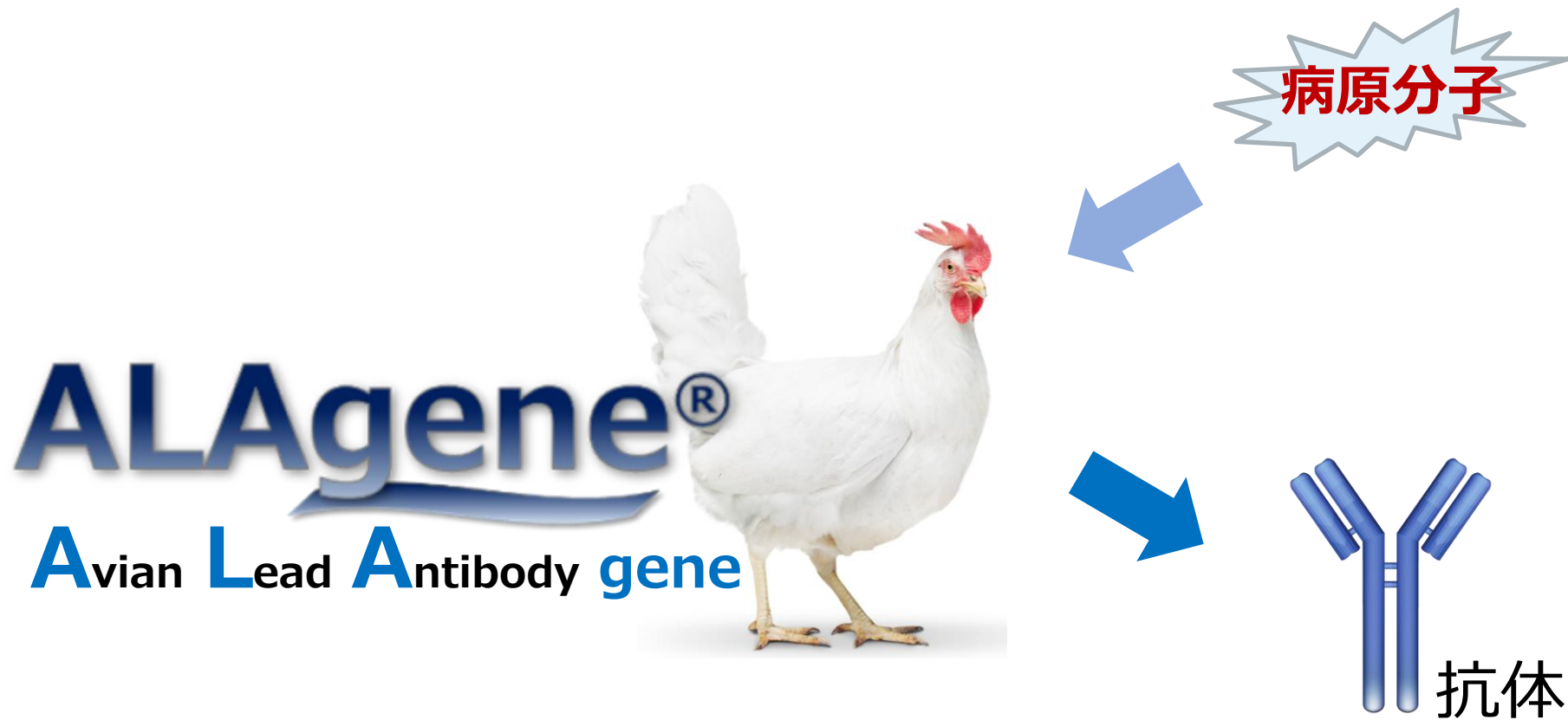
# 通信販売事業の収益構造

広告宣伝費は、顧客獲得時に計上するものの、売上高は定期コース継続中にわたって計上し、**売上高と広告宣伝費の発生時期が異なる構造**

収益構造のイメージ



# “ニワトリ”から抗体医薬品を作る



1

作製困難抗体

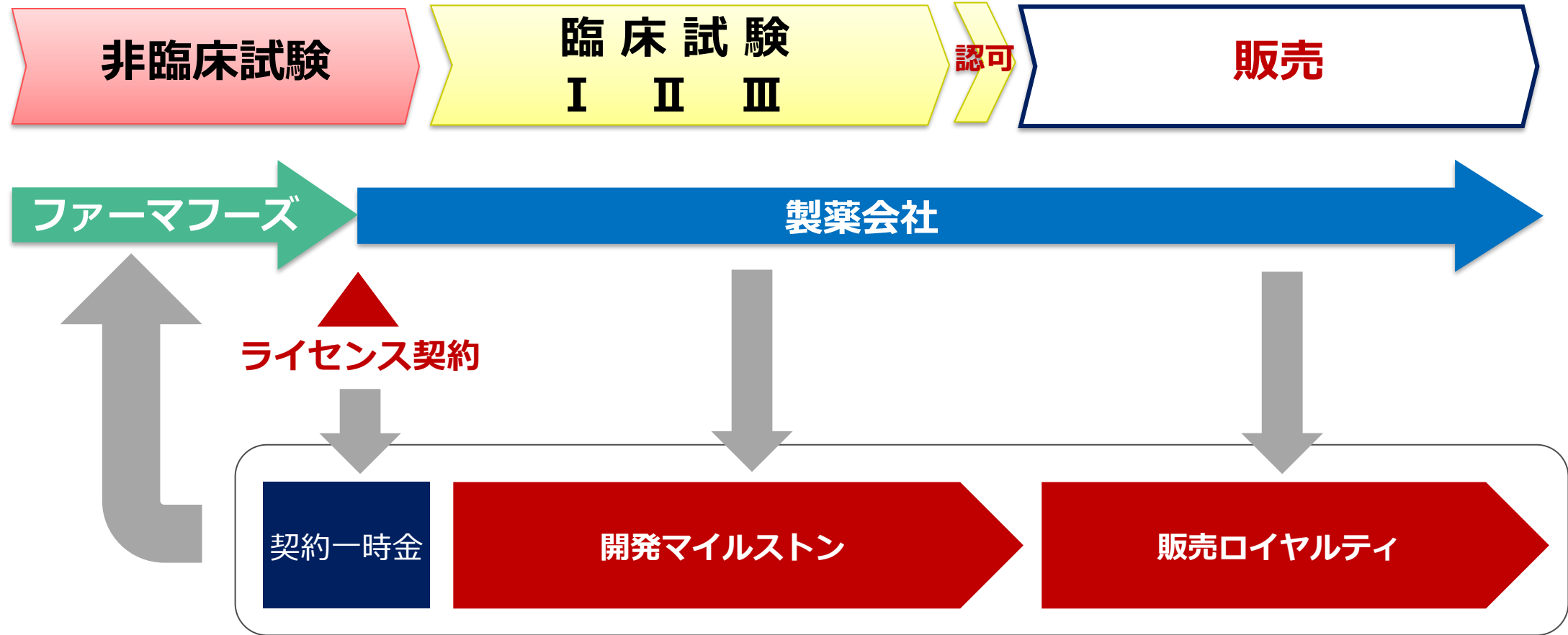
2

高結合力

3

ヒト化抗体

当社の特許を製薬企業へ実施許諾することにより、ライセンス収入を得る





## 自己免疫疾患治療マーケットは5兆円以上

## 関節リウマチ治療薬のマーケット

分類	製品名	世界売上高 (2020年度)	販売会社
抗TNF $\alpha$ 抗体	ヒュミラ	1兆3,062 億円	米AbbVie社/エーザイ
可溶性TNF $\alpha$ /TNF $\beta$ 受容体制剤	エンブレル	4,743 億円	Amgen社/Pfizer社/武田薬品工業
T細胞選択的共刺激調節薬	オレンシア	2,868 億円	米Bristol-Myers Squibb社/小野薬品工業
抗TNF $\alpha$ 抗体	シンポニー	2,774 億円	米Johnson & Johnson社/米Merck社/ 田辺三菱製薬
ペグ化抗TNF $\alpha$ 抗体Fab断片製剤	シムジア	2,289 億円	ベルギーUCB社/アステラス製薬
抗IL-6受容体抗体	アクテムラ	2,115 億円	スイスRoche社/中外製薬
抗TNF $\alpha$ 抗体	レミケード	1,686 億円	米Johnson & Johnson社/米Merck社/ 田辺三菱製薬